

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295100172		
法人名	(株)権兵衛		
事業所名	グループホームごんべえ (1F ユニット)		
所在地	焼津市塩津135-1		
自己評価作成日	平成29年3月7日	評価結果市町村受理日	平成29年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/z/z/index.php?action_kounyo_u_detail_2016_022_kani=true&lievosvoCd=2295100172-

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成29年3月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設して3年が経ち、共生・共助・柔軟・感動を柱に「今を共有し、今を精一杯楽しむ」というグループホームの理念の中、職員が利用者様個々に添った活動を提案しています。利用者様が今出来ることを大切に活動の中に取り込みながら、いきいきと楽しく生活出来るよう支援しています。また、地域密着型の施設として、地域の方々との関わりを大切に活動の中に取り入れるように心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価での気づきや目標設定へ真摯に向かい、マネジメントサイクル(PDCA)に乗せる力のある事業所です。本年度は、主に羞恥心や尊厳に係る介護方法のチェック表を導入して、毎月全体会議で振り返りも重ね、ルーティンが原因で「できない点」が浮き彫りになっています。平行して身体拘束排除にも力を入れ、アンケートによる知識測定を基盤に勉強会等を積み、標準化を進めるとともに身体拘束廃止委員の設置へとつなげています。平均介護度3~3.5を推移してやや重度化に向かう中、若い職員のチームワークで活気ある職場とし、おしゃべりカードで同僚にメッセージを届ける制度も4月からスタートします。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します (2F ユニット)

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度、今まであった法人理念を更に具体化し、全職員が共有しやすくした。新たな理念の下、全職員が同じ方向を向いたケアにあたりたい。	唱和の慣行はありませんが、現場指導や会議の場では度々理念に基づいた指摘や発言があります。本年度はこれまでの理念をより具体的に刷新するとともに、おしゃべりカードを使って同僚にメッセージを届ける制度が4月からスタートします。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	納涼祭や、月に1階の紙芝居などに地域の方を招待している。向かいの小学校の授業で、福祉について学習に来てくださるなど、少しずつ交流の幅が広がっている。	玄関脇に設置した駄菓子屋に学区外の児童も寄るようになり盛況で、静岡福祉大の生徒が訪れ紙芝居を毎月上演するようになっています。地域の文化祭に利用者の手編み帽子と布ぞうりを出展したり、本年は初めて介護実習や職業体験の受入もおこなっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座を開催している。認知症の理解や支援の方法については工夫が必要だと感じる。地域の方に興味を持っていただける試みを常に考え計画中。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的実施出来ている。懸案事項など、市の方や地域の方に助言を頂き、改善や実行に移している。	地域へ発信するちらしの置き場所やレイアウトへの助言を受けることができ、有意義な場に応援しています。また以前には交番警官、本年度は消防署危機管理課職員や駄菓子屋を通じて交流のある目の前の小学校の教頭先生の出席もあり、多様な人の関わりが見られます。	年間計画を立て、もれなく実施できるとな お良いと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホーム連絡会などでも情報交換を行えている。	市役所長寿福祉課と中部地域包括センター職員が揃って運営推進会議に出向いてくださり、アドバイスや指導に助けられています。事業所としても企業勤務者に向けて認知症サポーター養成講座を実施して、認知症理解の普及に協力しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止推進委員養成講座へ参加。ホームで勉強会を実施。その後、各ユニットで身体拘束廃止についての取り組みを2ヶ月間実施。職員の意識向上に繋げている。当ホームでは、11項目の禁止事項は無かった。	ユニット・玄関の入口に施錠はなく、玄関脇にある駄菓子屋の主人席に座ることで社会とのふれあいも続いています。身体拘束排除についても取り組み、アンケートによる知識測定を基盤に勉強会等を積み、標準化を進めるとともに身体拘束廃止委員の設置へつなげています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で、虐待防止や、権利擁護についても学んでいる。職員が声掛けや対応が正しいものであるか、お互いに指摘できる関係が必要だと常に指導している。職員のメンタル面や身体的な疲れの様子などもこまめに把握していきたい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は日常生活自立支援制度について学ぶ機会を持てた。今後職員にも伝え理解を深めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書、利用説明書等丁寧に説明をさせて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会の機会を多く持っていたけよう願っている。面会時など管理者以外に職員も常にご家族とコミュニケーションを取りご意見を伺うこともある。	運営推進会議には順次出席くださるよう声を掛けています。「面会に訪れてもらいたい」と歓迎の意を現すようにしていることは、お茶出しのマナーや茶葉の味からも覗えます。また毎日訪れる家族とは自然に親密となり、耳の痛いことも教えてもらえています。	通信、たより、新聞といった「現状を伝える」「残す」「共有する」ツールがあると、なおよいと思います。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やユニット会議で職員の意見を聞き職員が主体となって動けるようになってきている。若い職員の発言力が付いてきており活発な意見交換ができるようになった。	競争心がないのが利点でもあり難点でもあるメンバーのため、リーダーが意見を引き出すことに苦心しています。「会議で声のでるのがめずらしい」時期もありましたが、入れ替えもあり現在は意見交換が増えています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス構築に向け管理者やリーダーの研修やアセッサーの養成を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外の研修に参加、実施できている。個々の力量やスキル向上のため、アクションプランを作成した。現在、キャリア段位制度導入に向け、リーダーはアセッサー講習を受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との勉強会などを企画し参加出来ている。相互訪問も実施し、お互いの良いところが事業所に取り入れられたりしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のご本人のご様子や生活環境などご要望を伺っている。初期はご本人の混乱にも配慮しご家族にも面会回数を多くして頂いたりしてホームと家族の協力で支えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	聞き取りの中でご家族がしてきたケアについて伺いご本人とご家族がどのような生活をしてきたかを把握しご要望に応えられるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の話の中でご本人の不安とご家族の心配を軽減できるよう十分に意向など確認をするようにしている。他のサービスはなし。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の作業を行う時は一緒に行うようにしている。職員が忙しそうにしていると、自然に利用者が助けてくれる。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様にしかできないことや、日々の面会での関わりを大切にしている。毎日面会に来て頂いているご家族様も多い。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	信仰をお持ちの方もおり、馴染みの関係や付き合いを大切にできるよう、相手先の方とも連絡をとる事がある。	年2回実施の家族会では、「お気に入りの1着や大切な小物等思い出の品を身に着けて～」と呼びかけ、ファッションショーを開催しています。「おやじとこんな恰好したのは最後のゴルフだったかな」といった言葉も漏れ、思い出が思い出を呼ぶ催しとなりました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関わりから席の配置などに配慮し職員が間に入ったりしながら穏やかに生活出来るように支援している。利用者同士でお互いを気遣い手伝う姿も見られる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院への入院などで退所した直後はご家族様宛にお伺いのハガキを出している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人にゆっくり話を伺い「思い」にそえるよう、日々のケアに努力している。意思の疎通が難しい方は日々の様子や表情から思いを察するようにしている。	サービス担当者会議には居室担当職員のほか看護師も加わり、普段なかなか面会に訪れないキーパーソンも同席くださっています。入居時のアセスメントでは知りえない若い頃のエピソードが職員の畏敬を醸成したり、家族も「思い出の中に帰れて嬉しそう」との印象に結ばれています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの情報やご家族との話、入居してからは日々の話の中で情報収集を重ねている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ユニット会議や毎日の申し送りの際、利用者の状態を細かく観察し、その都度適切な対応ができるよう職員間で情報交換している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族のご意向、ご本人の思いなどを踏まえストロングポイントの視点を大切に介護計画を作成している。利用者にはそれぞれ担当職員がおり担当職員が中心になり他の職員の意見や他職種の意見も盛り込み計画している。。	居室担当は衣類交換等のほか、介護支援専門員が作成した介護計画書に準じて月ごとの計画書を作っています。職員の作る計画書は「私の願いやして欲しいこと」「私の注目して欲しい行動状態」と項目が明瞭で実践がスムーズです。また計画作成を担当できる人材も5名います。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝夕の申し送りノートの活用、担当職員からの連絡など記録状態や連絡を密にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	重度化した際や、身体的な衰えから転倒が続く方に関して居室の変更をしている。各ご家族様の協力や理解があり可能となっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会や市の職員、ごんべえの居宅ケアマネージャーなどなかも様々な情報を得ることができている。資源を活用し生活が豊かになるように支援して行きたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医にはご家族やご本人のご希望や相談、利用者の日頃の様子など伝えながら適切な医療が受けられるように支援している。	月1回訪問診療のある協力医に替わった7名以外は在宅の頃からの主治医を続け、往診には時間に合わせて来所くださる家族もいます。受診が唯一の接点となる家族もおり通院介助は関わりの機会として、バイタル表等書面を預けて家族にお願いしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と看護職のお互いの専門職から見た意見を総合してケアにあたっている。医療面での助言や指示も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の定期的な本人の様子確認を行っている。病院との情報交換、報告を受け、退院時も地域連携室を通じ退院カンファレンスを実施し退院後の生活の指導も受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	面会や担当会の際、ご意向や事業所でできることをお伝えしている。重度化に対応する為の設備についても少しずつ改善している。運営推進会議では、市や、地域の方とも話し合いの機会を持っている。	週2～3日非常勤での看護師配置もあり、本年度は3名のお見送りをしています。看取りを重ねるうち家族の過ごしやすさにも目を向けていて、「寝袋だった」ことから布団が用意され、「暗いなかで本を読んでいた」のでスタンドランプを購入し、「珈琲も」と様々整いつつあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアル対応はあるが、訓練の実施はできていない。看護師の指導の下、今後勉強会を実施する。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防の出前講座や、避難訓練を実施。課題や改善点などをもとに今後も安全な避難体制を、構築していく。地域の避難訓練には継続して参加出来ている。	消防署の危機管理課から専門家を招き、座学での理解を進め、避難訓練では「外に出た利用者が単独で中に戻ってしまわないように～」との具体的な指導を得ています。また地域の防災訓練では、設備や入居者の様子などプリント化して配布しています。	来期は年2回の法定訓練をおこなうとともに夜間想定を実施することを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月介護方法のチェック表を使用し、職員の意識向上や、対応の向上に努めている。	昨年度の外部評価を契機として名前を呼んでいたことを改め、名字に替えています。また代表者から年度のスローガンとして「言霊(ことだま)」の発表があったことも背景に、上位者から敬語を遣うようにしたところ、職員の言葉遣いにも変化が生まれています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択できる方には自己決定していただいている。発語のない方にも、普段の様子やご家族の情報から好みであろうものを選択している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	リハビリなどその方のペースで行っている。どのようにしたいか必ず聞くようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選択ができる方には、選んで頂いている。ご家族が利用者の好みの衣類をその都度持参して下さる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつ作りや食事作りは利用者も職員も楽しみにしており、個々の力に合わせ作業をしている。計画を立てることも楽しみの一つになっている。	菜の花やいんげん、春キャベツといった旬のものが入り、目にも鮮やかなメニューです。専任の調理職員が家庭的でありながらも手の込んだ献立を提供している一方で、大根のしぐれ煮に使うおろしは利用者によってもらったりと、有惑を高めようとの取組みもあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	コントロール食は厳密ではないが汁を減らす、大きさや、固さ、餡かけにするなど食べやすさや体調に配慮したものを提供している。ソフト食も導入。水分の摂りづらい方には、ゼリーや果物で代替するなど工夫もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。うがいが上手く行えない方などは、口腔ウェットティッシュ等使用し清潔を心掛けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を細かく記入し、利用者の排泄パターンを把握する努力をしている。日中はオムツゼロになっている。どなたもトイレに座って排泄できるように支援している。	排泄の担当者が排泄記録をしっかりとっています。「パット使用枚数」「失禁」「夜間の起床」など症状に係る数字は色分けもされ見やすいことから、職員の克己と実務に直結し、日中は全員が布パンとパットに向上しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな利用者には毎朝、ヨーグルトや牛乳をお出している。体力に応じて運動も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1階は入浴日が月水金の週3回になっているが、失禁などで入浴したい時はいつでも入浴することができる。入浴時間への配慮として、午前中のみ入浴を、午前午後入浴にし希望に答えられるように変更した。	入浴は週3日と定め、希望の時間帯など調整して全員が入れるよう工夫しています。現状は重度化してはいますが、機械浴は配されていないものの2人介助で湯に浸かる喜びを味わうことができます。時には鼻歌も飛び出し、気持ち良くて「出たくない」と言い出すこともあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	傾眠が強い時や、午睡の習慣のある方などに合わせ臥床していただいている。足の冷える方には足浴を実施したり、低温の湯たんぽなど使用し安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師や医師との情報交換を行っている。お薬情報も変更があった際は、こまめに刷新している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者全員に、役割や日課があり、今できることが継続できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望の場所へ外出、買い物へ行けている。ご家族とお出かけすることもあり。地域のイベントの招待もあり。	小石川の魚を見てくるコースと、寺院に寄るコース等、冬でも散歩に出かけています。同法人のデイサービスにある大型車を借りて、ショッピングセンターなどへ出掛けたり、夏には戸外で流しソーメンを楽しむ日もあります。	初詣、花見、紅葉狩など、季節に1度程度の外出企画があると、なお良いと思います。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで混乱し落ち着いて生活出来ない方に関しては必要な時にお渡ししている。外出先や、ホームの駄菓子屋で、利用者自らお金を使っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や、手紙を書きたいと希望がある時はその都度]対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日がまぶしいと感じる方や、暖かくて良いと感じる方もいるので、すぐにカーテンを閉めたりせず、好みの場所に誘導したり、それぞれの意見を聞くようにしている。テラスや畑、洗面所には季節の花や作物を植えている。壁面も季節感を出すようにしている、	壁の飾り付けが賑やかです。代表者の「介護に専念して欲しい」考えから環境整備の専任者がいて、共用空間は清潔です。昨年度の外部評価で目標とした「整理整頓」は、職員間で話し合い、チェックシートも備えて一つひとつ改善しています。	清掃における清潔は高いものの、洗濯バサミや画鋲の多用、ペーパータオル等の置き場所が定まっていないことはやや気がかりです。さらなる前進を期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配置や、ソファーなど居場所作りに配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅から持参していただいた家具や、本が好きな方は本などをお持ち頂いている。	畳の居室が各ユニットに4部屋ずつあり、畳部屋にベッドを入れている人もいます。ベッド脇の小さなチェストにラジカセや目覚まし時計を置く利用者が、「居室見せてもらってもいいですか」の問いかけに「散らかってるから片付けてね」と微笑ましいお願いをする様子を視認しました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ペーパータオルなど利用者の手が届くところに置いてご自分でできるようにしている。認知症の状態によって物が傍にあることが危険な方に関しては物を近くに置かない又は要見守りをしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295100172		
法人名	(株)権兵衛		
事業所名	グループホームごんべえ (2F ユニット)		
所在地	焼津市塩津135-1		
自己評価作成日	平成29年3月7日	評価結果市町村受理日	平成29年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhiw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&jiyosyoCd=2295100172-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成29年3月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念「あなたがそう願うなら、私達は絶対にあきらめない」を理念に自分で食べる事を諦めない、歩く事を諦めない、自宅で暮らすことを諦めないなど、利用者の願う状態や生活をとことん支えるケアを目指しております。併設する駄菓子屋ごんべえを地域との繋がりのツールとして活用し、自然に地域の方との関わりが持てるのも特徴としています。近所には小石川があり、鯉や水鳥が集まり、春には桜並木、夏には紫陽花、正面には西小学校、スーパー、図書館など立地にも恵まれております。認知症があっても、どっど地域に出て行ける事業所を目指しています。また、認知症ケアで培ったケア方法などを積極的に地域に発信し貢献できるように、認知症サポーター養成講座にも参加しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価での気づきや目標設定へ真摯に向かい、マネジメントサイクル(PDCA)に乗せる力のある事業所です。本年度は、主に羞恥心や尊厳に係る介護方法のチェック表を導入して、毎月全体会議で振り返りも重ね、ルーティンが原因で「できない点」が浮き彫りになっています。平行して身体拘束排除にも力を入れ、アンケートによる知識測定を基盤に勉強会等を積み、標準化を進めるとともに身体拘束廃止委員の設置へとつなげています。平均介護度3~3.5を推移してやや重度化に向かう中、若い職員のチームワークで活気ある職場とし、おしゃべりカードで同僚にメッセージを届ける制度も4月からスタートします。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します (1Fユニット)

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員ひとりひとりが意識を高め、理念を共有しグループホームを作り上げていくという気持ちで取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域防災訓練を始めとした自治会の活動や清掃活動、小学校との関わりを継続している。また、地域の文化祭には利用者様の作品を提出した。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「認知症リポーター養成講座」などの出前事業を行っている。また、行事に合わせた施設の開放を行い地域の方との関わりの方を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、実績や活動報告・懸案事項など多方面からのご意見を伺いながら運営に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議やグループホーム連絡会などで他事業者との情報や意見交換等を行っている。また利用者様やご家族の事案等で相談助言等を頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束廃止推進員養成講座」研修を受け自施設での勉強会や自己チェックなどを通じ職員全員で身体拘束しないケアに取り組んでいる。夜間以外は玄関の施錠はしていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	官理職として職員の口頃の様子を意識し話やすい環境を作り定期的な面談を実施している。利用者様は入浴時等に身体の状態も確認している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などに参加し、知識や理解を深めて支援できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居にあたっての契約時に重要事項説明書、利用説明書等丁寧に説明し、ご家族の質問などにもご理解頂ける様お話しをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様には日頃からお話しをする中でご意見・ご希望を伺い速やかに対応している。ご家族様には来所された時や運営推進会議、家族会などでご意見要望を伺っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員への定期的な面談や日々の業務を通じた中での関わりを心掛けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(株)権兵衛としてチャリ آپスの導入やアセッサーの育成と共に全職員への段位習得に向けて取組み準備をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員との面談の中で自身の二年後、三年後のビジョンに向けてサポートし意欲向上に繋げている。 内外の研修を積極的に取り込みながら会議等で現場にフィードバックしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会の参加や福祉課、包括主催の研修講演会などに出席し情報や意見交換をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人との面談の中で入居に向けての不安や心配が無いようじっくりお話を伺う。又、ご家族様にもご本人の基本情報を始め生活歴を伺い、混乱なく入居できるように準備をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至るまでの経緯や家族の思いを伺い、入居後の生活に反映させて行く。またご家族には本人が安心出来るように引き続きサポートをお願いしていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の生活歴等の聞き取りを充分に行い、全任のケアマネとの情報を参考にしながら、混乱なく移行できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までご本人がやってきた事や出来る事を活動の中に取り入れ、職員や他の入居者と共に楽しみや喜びに繋がる様支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護計画ブックなどには定期受診等は基本家族対応とさせて頂いている。又、施設の行事などには積極的に参加して頂き面会、外出なども特に制限を設けてない。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・親類などの面会は制限せず気軽に来て頂き交流を大切にしている。慣れ親しんだ場所などを職員と車で訪ねたりしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段の生活の中で家事活動などを一緒に行う事で利用者同士がお互い協力をし、気遣っている。他の方のお部屋にて数人でお話しを楽しむ事もある。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご家族の相談にのれる様、普段からの関係作りやサポートに努めている。又、看取り等で亡られた方のご家族には訪問等でお話しを伺う機会を作っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	画一化した対応ではなく、その方の思いを大切に出来るべく答えられる様心掛けています。担当職員が中心となり個に特化した活動など提案している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から聞き取りや情報を基に、今までの習慣やご本人のこだわりを大切にしながら、情報の共有・収集をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態を確認しながら今出来る事・楽しんでもらえる事を考えながら生活して頂いている。職員は業務日誌やユニット会議を通じ情報の共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	朝・夕の業務送りの確認や毎月のユニット会議で意見交換や懸案事項などを検討し実践している。ご家族にはモニタリング時や面談等で状態の報告している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌の活用や担当職員からの連絡事項等情報の共有化を図り全職員が把握し対応できるように記録物を活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今出来る事の継続と、今の思いや希望がなるべく具体化出来るよう取り組んでいる。又、社会資源なども積極的に取り入れていきたい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	「地域で生活する事」の意義を入切に、地域との関わり・交流を考え実践している。グループホームからも地域に向けて情報の発信をしていきたい。社会資源の活用をしていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療との連携がスムーズに行く様に定期受診時は日々の記録と最近の様子を記入した物をお渡しし、主治医の指示を仰いだりと連携している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の情報把握や服薬管理、急変時の対応などの支援をしている。夜間はオンコール体制となり24時間対応可能となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はご本人の基本情報の提供と共に病院との情報共有に努めている。入院中の状況の確認と地域連携室との連携を心掛け退院に向けてのご家族のサポートも行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人・ご家族・施設側と主治医の協力が得られる前提で終末期の支援とさせて頂いている。看取りの実績もある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、緊急時のマニュアル作成はある。救急時医療情報が記載されたシートを救急隊に渡している。看護師を中心に初期対応等の研修など今後も組み込みたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災訓練には必ず参加している。消防危機管理課より講習を受けたり防災の指導を受けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「お客様である」という意識を持ち言葉かけや対応に気使いが出来るよう心掛けている。業務内で気になる時はその都度指摘している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	先ずお話や声掛けの中でご本人の思いや希望を確認している。会話の難しい方は語りかけの表情で気持ちを汲み取っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のその時の気持ちや思いを尊重し確認しながら過ごして頂いている。又、個別の介護計画の中で個々に合ったものを提案している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服の選択など、できる方は自分で決めて頂いている。毎月の理美容もご希望をとっておこなっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食事の配茶や食事の配膳など利用者が家事活動の一環として役割を持って行っている。厨房職員が利用者の食事の様子を確認したり感想を聞いたりしながら食事作りを反映させている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の健康観察の中で食事量、水分量をチェックしている。麺類が苦手な方は代替えにしたり、水分の摂りが悪い方はゼリーの提供にしている。食器についても持ちやすい物に変えたりと工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは実施している。口腔の状態によってはスポンジブラシの活用をしている。職員がご本人の磨き残しや残渣物の確認、義歯の仕上げ磨きを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄係が中心となり排泄表の活用や日中の布パンツへの移行など、自立に向けた排泄や清潔保持を心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のリズムを掴みながら、なるべく水分や乳製品などを摂りながら自然な排便を促すようにしている。毎日散歩などの運動も日課としている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や午後の入浴など、基本的には決めさせて頂いているが体調をみながらなるべく希望に合った対応をしていきたい。都合が悪く入浴出来なかった時は翌日にと柔軟な対応もしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	身体の調子や前夜の睡眠の状態をみながら休息の時間を摂って頂いている。入眠を促す為に足浴等をして安眠に繋がる工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は基本的には看護師が管理し配薬している。薬の変更等があった時には業務日誌等の連絡欄で職員へ申し送り、状態や症状の注意を促している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな事や趣味を生かした活動を日課の中に取り込んでいる。図書館で本を借りたり、畑作業、園芸、手芸、習字などを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	担当職員が個別でレクリエーションを考え外出の機会を持ったり、数人のグループで近くの喫茶店に行ったりスーパーに行ったりしている。お弁当を作り公園に行ったりご家族と待ち合わせて回転すしを楽しんだりした。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理出来る方は少額ですが自分で持ち買い物を楽しまれる。その他の方は施設側がお預かりしてその都度お渡ししている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	殆どの利用者様はご家族が面会に見えるので電話等の要望は少ない。要望があれば事務所の電話を使って頂く。又、暑中見舞いや年賀状などはご家族宛てに書いて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	やすい空間になる様気を付けている。手作りの座布団やクッションを使用したり玄関やテラスには季節を感じられる花を植え目でも楽しんで頂いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フローアやソファでゆっくりテレビを観たり、テーブルを囲んでお茶を飲みながら談笑したり、自分の部屋で編み物をしたりと思い思いの過ごし方をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に「ご自宅の自分の部屋を再現して下さい」とお話しをし、自宅と同じ様にゆったり過ごせる空間を作って頂いている。馴染みの物に囲まれる安心感で過ごして頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内のバリアフリーや居室やトイレが引き戸で、居室の照明も紐を引くタイプの物など慣れ親しんだ物で生活して頂いている。階段も一段一段が低く昇りやすくなっている。		